

令和8年度第1回行政評価委員会 議事録

1 委員長あいさつ

委員長： 今年度第1回行政評価委員会を始めます。今日は新庁舎から各施設の視察を行います。よろしくお願いします。

2 組合施設の視察

(1) 新発田地域広域事務組合庁舎・消防本部・新発田消防署

下記箇所と消防車両を視察

- ① 消防本部指令室
- ② 消防本部作戦本部室
- ③ 新発田消防署仮眠室
- ④ 食堂、トレーニング室、シャワー室
- ⑤ 訓練棟

(2) 新発田広域エコパーク

乗合車で埋立地外周を回りながら施設説明のもと、車内から外観を視察

(3) 最終処分場建設予定地

乗合車で現地確認し、配布資料説明のもと、車内から外観を視察

(4) 中条地区塵芥焼却場

乗合車で現地確認し、配布資料説明のもと、車内から外観を視察

(5) 新発田広域不燃物処理場

概要パネル説明のもと、処理場全体を視察

(6) 葬斎センター願文院

下記箇所を視察

- ① 告別室
- ② 炉前ホール
- ③ 炉室
- ④ 収骨室
- ⑤ 多目的室

(7) 各委員からの所感、意見等

- 委員長： 視察を終えて、委員の皆様から所感、意見等をお願いします。
- 委員： 今日は主にごみ処理施設を視察したが、一般市民としてもっとごみを減らさなければいけないと感じた。ごみ減量化のために市町村はどのように働きかければいいのか、すぐには思いつかないが、視察を終えてごみ処理については理解できた。
- 委員： 埋立処分場ができた当時より、現在は埋立量が段々少なくなっているということは、ごみの分別がそれだけ進んだということである。家庭ごみをもっと減らすには限界があるかもしれないが、「物を増やさない」という個人としての意識が大事である。家庭にいと「ごみを出したら終わり」となってしまう、その後のことを考えていない、という自分がいる。やはり、広報等でごみの減量化について住民に知らせる努力が必要であると感じた。
- 委員： 普段あまり見ることのできない最終処分場などの施設を視察できてよかった。ごみを減らせば処理にかかるお金はかからない、税金は少なくて済む、そこがポイントだ。委員会の役割としてもそういったところを拾い出して、報告（評価）することだと思う。
- 消防（庁舎・車両）に関しては、視察して無駄なところはなかった。施設設備が新しくなり、仮宿舎のような二段ベッドで寝ている職員には心を痛めていたが、快適な部屋で泊まることができ、非常時にはすぐに出動できるようになった。お金はかかったようだが、これに関しては無駄ではなかった。
- 広域クリーンセンターと中条焼却場を統合し更新する方針とのことだが、老朽化の進んだ焼却場に関しては、集約化するのは当然のこと。建設予定地が新発田市というのは適当で、いろいろな条件面から考えると妥当である。
- 委員： 今日初めて見た施設がほとんどで、非常に参考になった。こういった現場で働く職員の大変さが分かった。
- 委員： 現在胎内市の総合計画を策定しているところであるが、環境分野ではごみの分別や最終処分場、また、消防や救急についても策定の議論には入っていない。各市町村の総合計画ではこういう問題は触れないのか。聖籠町ではどうか。
- 委員： 大きい計画ではなく、「ごみ減量化推進協議会」が別にあり、その中で企業の人や地域住民が入り、分別方法はこれでいいのか、また、ごみの収集日を減らしたり配付しているごみ袋の枚数をわざと減らしたりするなど、ごみ減量化に対して少しずつ工夫をしている。大きな問題についてはすぐに検討部会で委員が招集されるが、前年から大きな問題がないときはあまり招集されない。そういったことから総合計画に入ってこないのでは。
- 委員： ごみの処分は広域組合、収集運搬は市町村が行っている。ごみを減らせれば収集運搬費が減るが、ごみの収集から処分まで全部の計画を市町村では盛り込めない。

- 事務局： ごみの収集運搬、減量化、分別については基礎自治体の役目である。基礎自治体がもう少し積極的にイニシアチブを取って、住民にアプローチすることが必要。「ごみを焼却するとうなる」「減量化しないと最終処分場への焼却灰が増える」「そうすると処分場の延命化でなく早くに満杯になり、結局は処分場建設のため住民の税金が使われてしまう」、そういったごみ処理の循環的な取り組みを自治体が行うと住民の心に落ちてくる部分があるのでは。委員長のおっしゃるようにごみ問題に関して総合計画にアプローチしていただければと個人的には思う。
- 委員： 広域組合としては、各市町の広報紙にごみ処理に関して掲載をお願いしてはどうか。
- 事務局： 基礎自治体にはごみの分別や減量化の掲載をお願いしたい。
なお、プラスチックごみについて、新発田市と胎内市では「燃えるごみ」、聖籠町では分別して「プラスチックごみ」としている。ちなみに新潟市も分別している。そこで今回、新発田市ではプラスチックごみを分別してテスト収集しており、令和11年度から聖籠町を含めた3市町でプラスチックごみの共同処理を予定している。
- 委員： 分別したプラスチックごみは再利用するのか。
- 事務局： 再利用されている。
- 委員： 心配しているのは、現在新発田市と聖籠町ではごみの出し方が違うことである。ごみの分別、出し方を統一しないといけない。
- 委員： 根本的な解決として、広域組合の議会議員と3市町の議会議員で話し合ってもらわないと前に進まないと思う。一般に広報だけでは解決しないのでは。
- 委員： 先ほど言った政策を作るところで、住民も参加でき役割としてもう少し議論してほしい。
- 委員： 新聞記事で気になったことがある。メンタルの問題で組合職員を処分したようだが、それに関しては委員としての役割（評価）の範疇なのか。また、処分の状況を伺ってもよいのか。
- 事務局： 職員の配置計画の中で、職員の人数とサービスが費用対効果として合っているかどうかという大きなくりでは、委員の役割の範疇であろう。処分に関しては、当該職員はメンタルで休んでおきながら、さらに住民の税金から給料をもらっておきながら、メンタルとは関係ない別の活動を行っていたので処分した。現在、メンタルでの療養休暇職員は1人（会計年度任用職員）である。
- 委員： （メンタルでの休暇職員は）だいたい1%くらいいるといわれている。（組合職員が）300人なら3人だ。
- 委員： 行政評価委員会で職員の労務環境について評価するのは難しい。
- 委員： 10%となると仕事のメンタル面で問題だが、1%以下なのでごく普通の範囲である。
- 委員： メンタル面で休暇の職員は、もう少し多いと思った。

委員：組合の仕事は精神的にプレッシャーのかかる仕事が多い。福祉や消防の業務では、夜勤業務などプレッシャーがあるなかで、組合では施設を良くして少しでもストレスを軽減しているのであろう。

委員：旧消防庁舎は最終的に壊すのか。

事務局：組合の総合管理計画での公共施設の集約、複合化、統廃合により、旧消防庁舎と旧組合庁舎は統合して新庁舎となった。2つの古い庁舎は取り壊すこととしている。土地は等価交換によって新発田市の土地となる。

委員：葬斎センター願文院の職員は組合の職員か。

事務局：指定管理制度により、有限会社広域斎場公社が運営している。

委員長：以上でよろしいでしょうか。

それでは、今後の予定を事務局からお願いします。

4 今後の予定

事務局：今回は9月下旬に開催する予定で、委員の皆様から、組合事業の評価・審議をお願いしたいと考えております。評価・審議方法につきましてはあらかじめご案内し、当日の委員会でも説明したいと考えております。

委員長：事務局の提案について、皆さんいかがでしょうか。質問はありますか。

各委員：（なしの声）

5 その他

委員長：その他、皆さんから何かありますか。

委員・事務局：（なしの声）

委員長：今日はありがとうございました。